

研究基盤 EXPO2024
第3回研究基盤協議会シンポジウム
共創の場企画セッション「ONE TEAM 若手が考える研究支援体制」

日時：令和6年1月25日（木） 10:00～17:00

令和6年1月26日（金） 15:10～16:40

場所：沖縄県立博物館・美術館、オンライン

令和6年1月25日、26日に開催された研究基盤 EXPO2024 第3回研究基盤シンポジウムおよび共創の場企画セッション「ONE TEAM 若手が考える研究支援体制」に、大阪大学部局横断型女性技術職員ネットワークの技術職員2名が参加しました。

1月25日に開催された第3回研究基盤シンポジウム内のポスターセッション<大学・研究機関等による研究基盤に関する取組や課題等の事例紹介>（現地のみ開催）にて接合科学研究所の植原邦佳 技術職員がポスター発表を行いました。

現地参加の技術職員が男女問わず聴講してくださり、多くの女性技術職員からイベント運営への労いや、全国的な技術職員のネットワークによって日本中に繋がりがあることへの喜びなどありがたいお言葉を頂きました。毎年夏に開催している全国の大学と連携した子供サイエンスイベントについても「毎年楽しみにしている」とお声を頂き、今後のイベント運営に向けて非常に励みとなりました。男性技術職員からは昨年12月に開催した男性育休に関するセミナーのパネルディスカッションについて興味を持って頂き、ご自身の体験談などを交えた意見交換の場として非常に有意義な機会となりました。

また、コアファシリティ機構の江口奈緒 技術職員はポスターセッションにおいて大阪大学コアファシリティ機構の取組に関するポスター発表を行い、技術職員の育成も含めた全学の研究基盤強化に関する取組を紹介し、意見交換を行いました。

今後もより一層、このネットワークを通じた様々な取り組みとの連携や情報発信を継続していきたいと思っております。



ポスターセッションの様子

1月26日に開催の共創の場企画セッション「ONE TEAM 若手が考える研究支援体制」で行われたパネルディスカッションにおいて、植原邦佳 技術職員がパネリストとして登壇いたしました。

この企画セッションではまず若手ネットワーク代表の横野瑞希 技術職員（鳥取大学）より開会挨拶および若手ネットワークの取組紹介が行われました。

その後のパネルディスカッションでは若手ネットワークから植原技術職員を含む4名の技術職員、日本学術会議若手アカデミーから小野悠 准教授（豊橋技術科学大学）、江端新吾 教授（東京工業大学）がパネリストとして登壇し、研究者と研究支援者というそれぞれの立場から議論が交わされました。司会は若手ネットワークより富山大学 川谷健一コーディネーターが務めました。

ディスカッションの始めに、小野准教授から若手アカデミーおよび若手アカデミーが令和5年に発出した「2040の科学・学術と社会を見据えていま取り組むべき10の課題」についての説明がありました。それを受け、よりよい研究環境を実現するにはどうすればいいか、教員と技術職員の関わり方などをそれぞれの立場から述べられ、研究者と技術職員が双方のニーズを知りお互いに理解が深まる機会となりました。



パネルディスカッションの様子



女性技術職員ネットワークの 専門・機関をこえた連携とその成果



大阪大学
OSAKA UNIVERSITY

大阪大学 部局横断型
女性技術職員ネットワーク
Woman Technical Staff Network

大阪大学部局横断型女性技術職員ネットワーク

女性技術職員ネットワークの変遷

- 2019年 日本初の女性技術職員組織として発足 (10部局 21名)
- 2020年 関西全域に展開 (5大学・機関 28名)
- 2021年 全国に展開 (46大学・機関 121名)
- 2022年 大阪大学賞 (大学運営部門) を受賞
日産財団 リカジョ育成賞奨励賞を受賞
- 2023年 全国52大学・機関 135名が所属



女性技術職員ネットワークの目的

- ◆ 女性技術職員の技術交流、情報共有
- ◆ 女性ならではの視点からの職場環境の改善
- ◆ 地域貢献活動を通じた理工系人材育成
- ◆ 研究支援人材の認知度UP
- ◆ みんなにやさしい研究環境作り



主な活動

- ◆ 女技カフェ (身近な問題を話し合う場)
- ◆ ランチ会 (気軽に情報共有する場)
- ◆ 子どもサイエンス教室 (地域貢献・次世代育成)
- ◆ プロから学ぶ勉強会 (身近なテーマについて学ぶ機会)
- ◆ 女技セミナー (多角的視点を養い、現場の声を発信する)

セミナー



子ども科学イベント



保護者へ



技術職のお仕事紹介



オンライン

活動の成果

- ◆ 制度改正
「研究支援員制度」「英語論文のオープンアクセス支援事業」の対象枠を技術職員にまで拡大 (大阪大学→他大学へも拡大中)
- ◆ 女性技術職員の生の声を集約して届けられるようになった
- ◆ 技術継承、人材育成に繋がる交流が可能となった。
- ◆ 全国的な理工系分野への進路促進の取組みを実現 (小学生と保護者への働きかけ)
- ◆ 学内、一般への技術職員の存在を周知

最後に

多様なバックグラウンドを持つ女性技術職員の様々な視点から生まれるアイデアと連携が、日本の研究基盤を強化するイノベーションの源になると感じています。女性技術職員を始め、すべての研究支援人材が充実したキャリアステップ踏み、安心して働けるような環境づくりに今後も力を注ぎます。